

「金沢大学重点戦略経費政策課題対応型研究推進セミナー」を開催

2011年9月28日

9月28日(水)にがん進展制御研究所棟4階 会議室において、京都大学ウイルス研究所 松岡 雅雄教授を迎え、「ヒトT細胞白血病ウイルス1型の病原性発現機構」と題して、金沢大学重点戦略経費政策課題対応型研究推進セミナーを開催しました。

セミナーでは、松岡先生ご自身の最新の研究成果を示されながら、新しい知見を含めた病原性発現機構について、また、京都大学ウイルス研究所長のお立場から、共同利用・共同研究拠点としての研究所の取り組み・将来像について、大変興味深いご講演を頂きました。

セミナーには、所内外の研究者並びに大学院生ら約40名が参加し、活発な質疑応答や意見交換が行われました。



ヒトT細胞白血病ウイルス1型の 病原性発現機構

講演者

京都大学ウイルス研究所・教授
松岡雅雄先生

日時：平成23年9月28日（水） 17:00～

場所：金沢大学がん進展制御研究所 4F 会議室

我が国におけるヒトT細胞白血病ウイルス1型（HTLV-1）の感染者数は約100万人以上と推定されており、HTLV-1への感染に起因して、成人T細胞白血病（ATL）やHTLV-1関連脊髄症（HAM）などの重篤な疾病が発症することが知られています。

松岡先生は、HTLV-1感染による病態研究の第一人者として、この研究領域をリードされています。最近、ウイルスにコードされる新しい遺伝子HBZが、病原性の発現に強く関与していることを発見され、HTLV-1の分子生物学にブレイクスルーをもたらされました。

本セミナーでは、新しい知見を含めた病原性発現機構についてお話しいただくとともに、京都大学ウイルス研究所所長のお立場から、共同利用・共同研究拠点としての研究所の取り組みや将来像につきましても、お話を伺えることを期待しております。皆様奮ってご参加下さい。